



2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2024年2月8日

上場会社名 株式会社 アトム
コード番号 7412 URL <http://www.atom-corp.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 保幸
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 佐藤 真一郎

TEL 045-224-7390

四半期報告書提出予定日 2024年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	27,512	6.5	704		636		1,179	
2023年3月期第3四半期	25,842		1,256		1,322		1,451	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	6.24	
2023年3月期第3四半期	7.65	

(注)当社は、2022年3月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2023年3月期第1四半期から非連結での業績を開示しております。そのため、2023年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2024年3月期第3四半期	22,131		7,049		31.9
2023年3月期	22,528		8,216		36.5

(参考)自己資本 2024年3月期第3四半期 7,049百万円 2023年3月期 8,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)					

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,287	5.8	225		315		662		3.60

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	193,559,297 株	2023年3月期	193,559,297 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	443,561 株	2023年3月期	453,465 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	193,111,112 株	2023年3月期3Q	193,101,638 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、日常生活の制約が緩和され、経済活動の正常化が進みました。一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、円安の進行による原料・資源コストの高騰、エネルギー価格の高止まり及び慢性的な労働力不足の影響等により、引き続き先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、行動制限の緩和に伴いイートイン客数が急回復しており、また、入国制限の緩和以降、インバウンド需要の回復が続いております。一方で、昨年から続く原材料・エネルギー価格及び物流費の上昇を背景に、業界全体で価格改定の動きが継続しております。更なる物価上昇の懸念から消費者の生活防衛意識が高まっているものの、経営環境はコロナ前に向けて回復基調に転じております。

このような状況の中、当社では引き続き「すべてはお客様と従業員のために」という企業理念のもとにQSCA（品質、サービス、清潔、雰囲気）を高め、家庭ではなかなか体験できない様々な料理や高いレベルのサービスを提供することによって、「楽しかった、おいしかった」とお客様に喜んで頂けるよう努めております。

お客様のご期待にお応えするために、お得なハンバーグコンボメニューの提供や「国産しほろ牛サーロインステーキフェア・八十八鮒（やとやぶり）と冬の贅沢祭り」など、お客様に価値を感じて頂けるようなメニューを展開してまいりました。また、店内飲食だけではなく、テイクアウト、デリバリーによる飲食機会拡大にも引き続き取り組んでおります。

ステーキ宮は、2025年に創業から50周年を迎えることに先立ち「未来プロジェクト」として続々とキャンペーンをスタートしております。

以上のような取り組みを行い、当第3四半期累計期間における売上高は前期比で16億69百万円増加し、一定の成果が発現しつつありますが、原材料の価格高騰、物価上昇に伴う消費マインドの低下の影響もあり、計画に対する売上高の減少を取り戻すには至っておりません。

これらの結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高が275億12百万円（前年同期比6.5%増）、営業損失が7億4百万円（前年同期12億56百万円）、経常損失が6億36百万円（前年同期13億22百万円）、四半期純損失が11億79百万円（前年同期14億51百万円）となりました。第4四半期以降につきましては、各種販売施策の積極的な投下や費用対効果の精査に努め、損益分岐点の引き下げを行い、業績の回復を図ってまいります。

当第3四半期累計期間において、新規出店3店舗、不採算店15店舗、契約満了による2店舗の閉鎖により、当第3四半期会計期間末の店舗数は341店舗（直営店331店舗、FC店10店舗）となりました。また、業態転換を4店舗、リモデルを21店舗行いました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

<レストラン事業>

レストラン事業につきましては、新規出店3店舗（「カルビ大将」2店舗、「ステーキ宮」1店舗）、業態転換を2店舗（「味のがんこ炎」から「カルビ大将」へ2店舗）、リモデルを16店舗（「ステーキ宮」10店舗、「にぎりの徳兵衛」5店舗、「海鮮アトム」1店舗）、不採算店4店舗（「ステーキ宮」3店舗、「海鮮アトム」1店舗）、契約満了による1店舗（「ステーキ宮」1店舗）の閉鎖を行い、当第3四半期会計期間末の店舗数は251店舗となりました。

レストラン事業の当第3四半期累計期間の売上高は、227億65百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

<居酒屋事業>

居酒屋事業につきましては、業態転換を2店舗（「寧々家」から「いろはにほへと」へ2店舗）、リモデルを2店舗（「いろはにほへと」2店舗）、不採算店11店舗（「やきとりセンター」1店舗、「寧々家」5店舗、「いろはにほへと」2店舗、「甘太郎」1店舗、「ぎんぶた」1店舗、「暖や」1店舗）、契約満了による1店舗（「いろはにほへと」1店舗）の閉鎖を行い、当第3四半期会計期間末の店舗数は55店舗となりました。

居酒屋事業の当第3四半期累計期間の売上高は、33億12百万円（前年同期比16.1%増）となりました。

<カラオケ事業>

カラオケ事業につきましては、リモデルを3店舗（「時遊館」3店舗）行い、当第3四半期会計期間末の店舗数は25店舗であります。

カラオケ事業の当第3四半期累計期間の売上高は、12億28百万円（前年同期比22.1%増）となりました。

<たれ事業>

たれ事業につきましては、第2四半期会計期間の期首にコロワイドグループの株式会社コロワイドMDへ移管しております。

たれ事業の当第3四半期累計期間の売上高は、1億62百万円（前年同期比67.1%減）となりました。

<その他の事業>

その他の事業につきましては、当第3四半期会計期間末の店舗数はFC店10店舗であります。また、給与計算事務等のアウトソーシング事業は、前第2四半期会計期間の期首に親会社の株式会社コロワイドへ業務移管しております。

その他の事業の当第3四半期累計期間の売上高は、43百万円（前年同期比50.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ3億97百万円減少し、221億31百万円となりました。その要因は現金及び預金を主とした流動資産の減少3億27百万円、新規出店、業態転換及びリモデルを主とした有形固定資産の増加3億10百万円、敷金及び保証金の回収を主とした投資その他の資産の減少3億72百万円によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ7億69百万円増加し、150億81百万円となりました。その要因は販売促進引当金を主とした流動負債の増加1億75百万円、長期借入金を主とした固定負債の増加5億93百万円によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ11億66百万円減少し、70億49百万円となりました。その要因は四半期純損失の計上11億79百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は31.9%（前事業年度末は36.5%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年11月9日に公表致しました内容から変更はございません。

尚、今後の業績の推移等を慎重に検討した上で、更に修正が必要な場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,568	5,064
売掛金	1,232	1,256
有価証券	-	15
棚卸資産	275	425
その他	516	504
流動資産合計	7,593	7,265
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	5,669	5,815
その他（純額）	3,225	3,390
有形固定資産合計	8,895	9,205
無形固定資産	96	88
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,885	3,687
その他	2,091	1,913
貸倒引当金	△32	△29
投資その他の資産合計	5,943	5,571
固定資産合計	14,935	14,866
資産合計	22,528	22,131
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,516	2,755
短期借入金	2,150	1,650
1年内返済予定の長期借入金	1,302	1,756
未払法人税等	134	107
資産除去債務	218	148
賞与引当金	81	25
販売促進引当金	765	1,153
店舗閉鎖損失引当金	52	85
その他	3,238	2,954
流動負債合計	10,459	10,635
固定負債		
長期借入金	2,045	2,894
資産除去債務	1,325	1,256
その他	482	295
固定負債合計	3,852	4,446
負債合計	14,312	15,081
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	10,645	8,321
利益剰余金	△2,328	△1,179
自己株式	△183	△179
株主資本合計	8,233	7,062
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△17	△12
評価・換算差額等合計	△17	△12
純資産合計	8,216	7,049
負債純資産合計	22,528	22,131

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	25,842	27,512
売上原価	9,027	9,560
売上総利益	16,815	17,952
販売費及び一般管理費	18,071	18,656
営業損失(△)	△1,256	△704
営業外収益		
不動産賃貸料	85	78
補助金収入	3	33
その他	42	84
営業外収益合計	131	196
営業外費用		
支払利息	45	43
不動産賃貸原価	75	68
減価償却費	52	—
その他	24	16
営業外費用合計	196	128
経常損失(△)	△1,322	△636
特別利益		
助成金収入	57	—
固定資産売却益	1	3
投資有価証券売却益	—	2
その他	0	—
特別利益合計	58	5
特別損失		
固定資産除却損	149	118
減損損失	—	134
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	85
その他	—	4
特別損失合計	149	342
税引前四半期純損失(△)	△1,412	△973
法人税、住民税及び事業税	96	94
法人税等調整額	△56	111
法人税等合計	39	206
四半期純損失(△)	△1,451	△1,179

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。